

エクセルの標準偏差計算 関数活用チェックリスト

事前確認（関数の選定方針）

チェック	確認事項
<input data-bbox="160 325 202 369" type="checkbox"/>	対象データが「母集団全体」か「サンプル（母集団の一部）」かを判断した - 補足：全データを網羅している場合は母集団、抜き出しデータの場合はサンプルとして扱う
<input data-bbox="160 500 202 543" type="checkbox"/>	母集団の標準偏差を求める場合に「STDEV.P」を使用する方針を確認した - 補足：全データポイントが母集団を代表している場合に適する
<input data-bbox="160 674 202 718" type="checkbox"/>	サンプルの標準偏差を求める場合に「STDEV.S」を使用する方針を確認した - 補足：母集団の一部から推測する場合に適する

データ入力（計算前の準備）

チェック	確認事項
☐	入力したデータが「右寄せ」になっているかを確認した
☐	範囲内に不要な「0（ゼロ）」と「空白」が混在していないことを確認した
☐	桁間違いなど外れ値がないか目視で確認した
☐	標準偏差を計算したい数値をExcelに入力した
☐	計算対象のデータ範囲（例：A1:A10）を確定した

関数入力（標準偏差の算出）

チェック	確認事項
☐	計算結果を表示したいセルを選択した
☐	母集団として計算する場合に「=STDEV.P(データ範囲)」を入力した - 例「=STDEV.P(A1:A10)」
☐	サンプルとして計算する場合に「=STDEV.S(データ範囲)」を入力した - 例「=STDEV.S(A1:A10)」
☐	カッコを閉じてEnterキーを押し、計算結果を表示した

結果の確認（精度への影響確認）

チェック	確認事項
<input data-bbox="160 328 202 369" type="checkbox"/>	STDEV.P／STDEV.Sの選択がデータの種類の合っていることを確認した - 補足：関数の選択は分析の精度に影響する
<input data-bbox="160 482 202 523" type="checkbox"/>	データに誤りがないか確認した

活用（標準偏差の使いどころ整理）

チェック	確認事項
☐	データセットのばらつきを把握する目的で、標準偏差の値を確認した - 補足：標準偏差でデータの中心からのズレ（ばらつき）を捉える
☐	標準偏差の大小を踏まえ、データの安定性比較に使えるか検討した
☐	投資のリスク評価として、価格変動（リターンのばらつき）の指標として使う前提を確認した
☐	品質管理として、工程のばらつき評価や不良品低減の確認に使える前提を確認した
☐	教育の成績分析として、クラス成績のばらつき把握に使える前提を確認した
☐	マーケティングとして、売上データのばらつき測定や施策効果解析に使える前提を確認した

チェック漏れ防止のための注意事項

チェック	注意事項
☐	STDEV.PとSTDEV.Sは全数データなら .P、一部の抜き取りなら .S を徹底して使い分ける
☐	関数選択は分析の精度に影響するため、母集団／サンプルの判断を曖昧にしない
☐	データ範囲（例：A1:A10）の選択ミスは算出値に直結するため、範囲確定を省略しない
☐	データに異常値がないか、範囲内に空白や文字、合計行が含まれていないかの目視確認を行ってから結果を利用する

※2025年12月時点の情報をもとに作成しています